

奈弓連だより

通巻 180号

平成 29 年 2 月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 土谷尚敬 野尻賢司

百射会

男子:山口選手、女子:吉岡選手が 1 位に

百射会が1月22日(日)に橿原公苑弓道場で開催されました。男子が26名、女子が13名参加して近的100射を競いました。

今回の百射会は参加人数が例年に比べ少なく、後半は、半数の立が1射場2人での運行となりました。来年は、多くの方のご参加をお待ちしております。結果は次の通りです。

男子の部

完射人数: 21人

1位	山口 亮二	(生駒)	82中
2位	長濱 正伸	(橿原)	78中
3位	辻本 元威	(香芝)	77中
3位	今西 達也	(五條)	77中

女子の部

完射人数: 7人

1位	吉岡 瑞紀	(香芝)	60中
2位	奥戸 由美	(郡山)	55中
2位	小西 徳子	(橿原)	55中

(競技部 長濱 正伸)

奈良県弓道団体選手権大会

生駒Bチーム(辻本、山口、田中)が優勝

第18回奈良県弓道団体選手権大会(兼全日本勤労者弓道選手権大会県予選会)が2月12日(日)に橿原公苑弓道場で開催されました。団体(3人)近的競技に52チーム(155人)が参加しました。

本大会は、奈良県の競技の内、一般と中学生、高校生、大学生が一緒になって競う数少ない競技会です。当日は、寒い一日ではありましたが、一般は学生に負けじと、また、学生も一般に負けじと、熱戦が繰り広げられました。結果は次の通りです。

予選通過チーム

五條A	14中	(檜尾 涼・今西 達也・新子 修平)
橿原G	14中	(衛藤 博史・角田 圭一郎・乾 光孝)
生駒B	20中	(辻本 元威・山口 亮二・田中 智)
天理大学A	17中	(上野 椋平・中尾 信次郎・脇田 政宏)
天理大学B	18中	(宮本 佑香・井阪 美樹・岩下 晴奈)
西の京高校	15中	(芳仲 貴久・桐木 つばさ・岡田 大輝)
橿原C	16中	(中野 順平・原田 祐介・宮島裕也)
奈良B	15中	(揚田 よう子・中山 誠一郎・中井 達男)

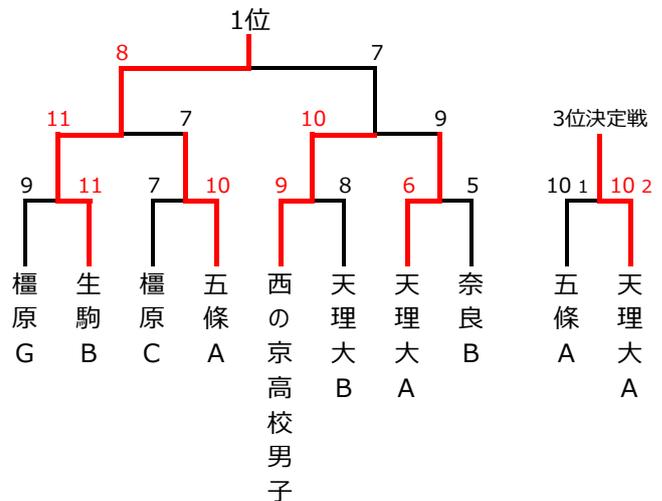
おめでとうございます

2月3日に名古屋市の日本ガイシスポーツプラザ弓道場で開催された【名古屋】定期中央審査会において、吉本清巳さん(教士六段)が七段の部候補者に選ばれました。論文審査を経て、七段合格決定となります。

(事務局)

決勝トーナメント

- 1位: 生駒B (辻本 元威・山口 亮二・田中 智)
2位: 西の京高校 (芳仲 貴久・桐木 つばさ・岡田 大輝)
3位: 天理大学A (上野 椋平・中尾 信次郎・脇田 政宏)



全日本勤労者弓道選手権大会出場事業所

本大会の結果に基づき奈良県教職員、関西電力株式会社奈良が全日本勤労者弓道選手権大会に出場することになりました。

(競技部 長濱 正伸)

近畿教職員弓道大会

男子団体で奈良 B チーム(矢野、奥田、井戸上)が 2 位入賞

第46回近畿教職員弓道大会が2月11日(土・祝)橿原公苑弓道場にて開催されました。当日は大雪寒波の中での開催であり、近畿各地から来県いただけるのが不安でしたが欠席者は3名だけで、59名の皆さんに参加いただきました。

橿原は矢道に薄く雪の残る状態で、それも開会式には消えていました。開会式では大阪の山本先生から本年8月に大阪城弓道場で開催される全国教職員大会の紹介があり、近畿全体で担当していくのだとの思いを持ちました。

競技は個人、団体（男3・女2）とも各12射の合計数で競いました。結果は次の通りです。

男子団体

優勝 兵庫D 24中、2位 奈良B（矢野・奥田・井戸上） 23中、3位 兵庫A 20中

女子団体

優勝 和歌山 15中、2位 京都A 14中、3位 兵庫B 13中

男子個人戦

奥田選手が9中で遠近法により3位に入賞しました。
（教職員：土谷尚敬）

大和郡山市弓道協会射初会

「何事も少々の困難に負けない気持ちを持たないと成長は無い」（須田先生の挨拶）

1月15日（日）、今年一番の寒波の日で時折粉雪が舞う中、37名の会員が参加して、新春恒例の大和郡山市弓道協会射初会が開催されました。

開会式では、須田先生から「今日は小正月で、正月気分も今日まで。何事も少々の困難に負けない気持ちを持たないと成長は無い。今日は大変寒いけれども負けずに頑張りましょう」と励ましの言葉がありました。最初に、昨年末に錬士に合格された佐藤峻さんによる矢渡が、第一介添：佐藤央恵さん、第二介添：岡田で行われました。

その後、参加者全員が一手行射を行い午前の部を終了し、午後からは指導部の企画で、チーム別の団体競技を実施しました。続いて射初会で恒例となっている紅白チームに分かれての紅白的合戦が行われ、一射毎に道場内に寒さを吹き飛ばすような拍手、歓声、ため息が入り交じりました。

最後に、本年の当協会の努力目標「競技力の強化」を念頭に置いた射詰競射、遠近競射を行い、道場内は



粉雪が舞う中、37名の会員が参加して射初会

正月気分も吹っ飛ばすような緊張感に包まれました。そんな雰囲気の中で萩田さんが見事優勝され、射初会を終了しました。今年の射初会は、全員で射技を競い合うという形での新年幕開けとなりました。この一年皆さんと共に頑張りたいと思っています。

（大和郡山支部 岡田貴史）

第1回大学連合会講習会

5大学から23名が参加：基本体・射技を研修

平成28年度第1回大学連合会講習会が2月5日（日）に奈良市弓道場で開催され、奈良女子大学、奈良教育大学、奈良大学、奈良県立医科大学、天理大学から23名の学生が参加しました。主任講師（阪中 教士六段）、講師（新司 教士七段、深田 教士六段）で行われました。

非常に冷たい雨模様の日でしたが、受講生は熱心に基本体、射技の研修に取り組みました。途中、阪中主任講師から主要なポイントについて分かり易く説明していただきました。その甲斐あって、午後の行射では、最初の一手に比べ、見違えるほど立派な体配となり、射も生きてきました。

主任講師の説明（主要ポイント）

- 入場ではどこに正対するのかを確認し、目線と身体を上座に正しく向ける。
- 本座の位置に膝頭が来るように座る。
- 矢番動作の構えた時の姿勢は弦が鼻筋、矢が床と平行にする。
- 自分の成長に合わせて弓力を上げていく方が、技量が上がる。
- 道場により大きさは異なるので、それぞれに合わせて体配を行う。
- 目づかいは心が落ち着くので大切である。
- 5人が一緒に弓を引く気持ちを持つ。

今回はこの講習を受けられた主管大学の参加者に感想を述べていただきましたので次にご紹介します。

（指導部 野尻祥枝）

大学連合会講習会で得た貴重な学び

この講習会では先生方が審査の体配や射技について、とても丁寧に教えて下さいました。審査の体配は口頭での指導に加え、実際に先生方が実演して下さいましたので、より分かりやすかったです。大勢の先生方の弓道を、間近に見せて頂くことの出来る、貴重な経験でした。

射技では、学生一人ひとりに対し、先生方が丁寧に指導して下さいました。先生方が温かい雰囲気の中で指導して下さいましたので、伸び伸びと弓を引くことが出来、また、とても楽しく学ぶことが出来ました。今までの課題の克服の仕方と新しい課題を知り、これからも弓道に挑戦していこうとする意欲がより生まれました。



大学連合会講習会で射技指導を受ける参加者たち

また、大勢の学生が集まって弓道をする機会は大変だと感じました。それぞれの長所を取り入れ合い、刺激を受けあうことで、全体としてより良いものになっていくと思いました。同じ奈良県で頑張っている仲間だからこそ、これからもこのような機会を大切にしていきたいです。

講習会で得た知識と心得を、部員にも伝えていきたいと思っています。とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。講習会を開催して下さいました先生方、ありがとうございました。

(奈良教育大学弓道部 幾田綾夏)

奈良県高等学校新人大会兼学年別弓道大会

平成 28 年度奈良県高等学校新人大会兼学年別弓道大会が橿原公苑弓道場で、西部地区は平成 29 年 2 月 4 日に、東部地区は翌日 2 月 5 日に、それぞれ開催されました。競技は各自 4 射・チーム 12 射で競われました。各地区の結果は次の通りです。

西部地区(平成 29 年 2 月 4 日開催)

1 年男子団体

- 1 位 橿原高校 C 9 中 (西谷・夷・高橋)
- 2 位 奈良北高校 A 8 中 (松本・本多・田中)
- 3 位 法隆寺国際高校 A 5 中 (内藤・松原・田宮)

1 年男子個人

- 1 位 田宮颯人 (法隆寺国際高校) 4 中
 - 2 位 西谷 永 (橿原高校) 4 中
 - 3 位 高橋優介 (橿原高校) 4 中
- (順位決定は射詰めによる)

1 年女子団体

- 1 位 西和清陵高校 A 6 中
(岡村・上田・尾崎・池田)
 - 2 位 法隆寺国際高校 A 5 中 (宮繁・山本・源)
 - 3 位 五條高校 A 5 中 (高西・柿谷・新田)
- (2 位・3 位決定は競射による)

1 年女子個人

- 1 位 柿谷知宥 (五條高校) 3 中
 - 2 位 宮繁美優 (法隆寺国際高校) 3 中
 - 3 位 渡邊沙紀 (橿原高校) 3 中
- (順位決定は射詰めによる)

2 年男子団体

- 1 位 五條高校 B 8 中 (西口・今西・高井)
 - 2 位 高田商業高校 A 7 中 (山下・飯塚・井上)
 - 3 位 橿原高校 B 7 中 (山下・西本・森口)
- (2 位・3 位決定は競射による)

2 年男子個人

- 1 位 仲尾智也 (登美ヶ丘高校) 4 中
 - 2 位 西口歩希 (五條高校) 4 中
 - 3 位 高井優馬 (五條高校) 3 中
- (1 位・2 位決定は射詰め、3 位決定は遠近法による)

2 年女子団体

- 1 位 奈良北高校 B 8 中
(藤野・石原・岡本・田中)
 - 2 位 高田商業高校 A 7 中 (笠谷・上村・西)
 - 3 位 五條高校 B 7 中 (香西・櫻井・大西)
- (2 位・3 位決定は競射による)

2 年女子個人

- 1 位 西 翠 (高田商業高校) 4 中
 - 2 位 櫻井麻貴 (五條高校) 4 中
 - 3 位 森田汐音 (橿原高校) 3 中
- (1 位・2 位決定は射詰め、3 位決定は遠近法による)

3 年男子団体

- 1 位 奈良高専 A 9 中 (鷺尾・井上・圓城)
- 2 位 五條高校 A 6 中 (筒井・横田・大光)
- 3 位 法隆寺国際高校 A 5 中
(山本・井上・藤田・西林)

3 年男子個人

- 1 位 井上誠之 (奈良高専) 4 中
 - 2 位 筒井湧大 (五條高校) 4 中
 - 3 位 藤田和輝 (法隆寺国際高校) 4 中
- (順位決定は射詰めによる)

3 年女子団体

- 1 位 高田商業高校 A 2 中 (上原・二之宮・荒井)
 - 2 位 高田商業高校 B 2 中 (村田・中川原)
 - 3 位 奈良高専 A 1 中 (秋山・榎根)
- (1 位・2 位決定は競射による)

3 年女子個人

- 1 位 高谷 果歩 (奈良北高校) 2 中
 - 2 位 村田 仁見 (高田商業高校) 1 中
 - 3 位 中川 原遥 (高田商業高校) 1 中
- (2 位・3 位決定は遠近法による)

東部地区(平成 29 年 2 月 5 日開催)

1 年男子団体

- 平城高校 C 9 中 (足立・岡本・廣田)
- 奈良高校 A 6 中 (村上・濱中・五十嵐)
- 桜井高校 A 5 中 (夢田・石橋・辻本・安田)

1 年男子個人

- 1 位 廣田宥斗 (平城高校) 4 中
- 2 位 足立拓馬 (平城高校) 4 中

3位 鍵谷悠喜（榛生昇陽高校） 3中
（1位・2位決定は射詰め、3位決定は遠近法）

1年女子団体

1位 西の京A 8中（澤・平松・木村）
2位 郡山高校B 6中（堀口・田島・川上）
3位 郡山高校A 5中（甲谷・永田・松本）

1年女子個人

1位 平松由莉（西の京高校） 4中
2位 松村弥生（畝傍高校） 3中
3位 黒田香凜（桜井高校） 3中
（2位・3位決定は遠近法）

2年男子団体

1位 畝傍高校B 8中（松田・岡本・山田）
2位 榛生昇陽高校A 7中
（藤本・奥村・丹度・小林）
3位 西の京高校A 6中（芳仲・才治・岡田・高間）
（3位決定は競射）

男子個人

1位 松田優輝（畝傍高校） 4中
2位 平田雄士（平城高校） 4中
3位 丹度唯織（榛生昇陽高校） 3中
（1位・2位決定は射詰め・3位決定は遠近法）

2年女子団体

1位 畝傍高校A 8中（後藤・庄田・浅田）
2位 西の京高校A 8中（小木曾・川元・丸尾）
3位 郡山高校B 8中（上山・真田・吉川）
（順位決定は競射）

2年女子個人

1位 水内野々華（郡山高校） 4中
2位 山本 仁美（桜井高校） 4中
3位 坂本 夢菜（榛生昇陽高校） 4中
（順位決定は射詰め）

3年男子団体

1位 桜井高校A 5中（尾田・澤田・阪本）
2位 西の京高校A 4中（染田・北村・寺脇・中島）
3位 榛生昇陽高校A 4中（谷・富永・柳谷）
（2位・3位決定は競射）

3年男子個人

1位 尾田拓哉（桜井高校） 3中
2位 染田隆道（西の京高校） 2中
3位 阪本貴大（桜井高校） 2中
（2位・3位決定は遠近法）

3年女子団体

1位 西の京A 5中（3年女子は1チームの参加）

3年女子個人

1位 赤尾音乃（西の京高校） 4中
2位 尾上千佳（平城高校） 1中
3位 吉仲秋月（西の京高校） 1中
（2位・3位決定は遠近法）
（高体連 藤村佳照）

編 | 集 | 後 | 記

一年の中で最も寒さが厳しい中で開催された射会、講習会の報告が寄せられました。武道においては寒さ厳しい中での修練には特に意味があり、奈良市でも武道寒稽古会が毎年1月に開催されています。百科事典によると寒稽古の意味を次の通り説明しています。「一年の中で最も寒い時期の、未明から明け方の時間に行われる。昨今は社会・生活背景などもあって、暦の上での大寒の前後に行われる稽古を指す。また神道や修験道、仏教の一部などで寒修行または寒行と称して、海・川などの水に入る、或いは滝に打たれる滝行などをして精神を鍛錬していることから、武道の寒稽古でこれを取り入れていることも多い。武道では極限状態まで自らの身体・精神を追い込み、そこで自らの弱さに打ち勝ち(克己)自らの前途を開くことを一つの眼目としている。」（ウィキペディアから引用）

編集担当 野尻賢司